

農業委員会活動 新体制での1年を振り返って

地域の実情に合った農地制度の運用を

豊岡市農業委員会 会長 森井 脩



県下最大の市域である豊岡市の農地は、地域によって様々な状況があります。六方田んぼに代表される広い平地、神鍋高原などの畑作地域、最も多い中山間地域、そして、狭い谷間に散在する狭小な農地などです。これらの農地はそれぞれに様々な問題を抱えています。とりわけ中山間地域にあつては、高齢化と担い手不足は深刻です。

農業の担い手はそれぞれの地域に見合った形で考えなければなりません。規模拡大で効率的な経営も大切ですが、それが叶わない地域にあつては家族経営農業、集落営農、半農半X（エックス）など様々な形があると思います。農地を守る担い手も農業者だけでは困難です。集落全体、更には集落を超えた地域の共同した取り組みが必要な時代になってきていると思います。豊岡市農業委員会は、改正農業委員会法に基づき十九名の農業委員と、二十五名の農地利用最適化推進委員の新しい体制でこの一年間の活動を進めてまいりました。とりわけ、担当地区を持って活動している推進委員の任務は、それぞれの地域の実情に合った農地制度の運用を進めていくうえで最も重要です。地域に根差した農業委員会となるよう一層の努力をしてまいります。皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

船出の1年を振り返って

会長職務代理者

兼農地対策委員長 大原 博幸



新体制に移行し一年となりましたが、私が担当した農地対策委員会では、農地の権利移動、転用許可、農地パトロール、意見書の提出等の業務を行いました。当初どうなるか一抹の不安もありましたが、順調に業務をこなすことができました。その中で意見書提出について少し振り返ってみたいと思います。

意見書は、農地等の利用の最適化推進に関する施策について、具体的な意見を出し、行政機関等に出された意見を考慮することが義務付けとなっております。

そこで平成二十九年意見書作成にあたっては、

- ①遊休農地の発生防止及び解消
- ②担い手農家や集落営農の育成と支援
- ③地域を支える農政
- ④有害鳥獣の被害防止対策の強化
- ⑤地産地消と食農教育・環境にやさしい農業の推進

の五つに絞り、委員各位から意見を求め、行政当局あて提出しました。その内容については農業委員会だよりで報告したところです。

今後とも、農家の声を反映し、農地等の利用の最適化推進に貢献する意見書になるよう、研鑽を積む必要があると感じています。

頼られる農業委員会に向けて

会長職務代理者

兼農地利用最適化推進委員長 村田 憲夫



昨年四月より農業委員会の組織も大きく変わり、新たに農地利用最適化推進委員二十五名が委嘱され、農業委員十九名と一緒に活動のスタートを切りました。

農業委員会の役割が「農地等の利用の最適化の推進」として強化されたのを機に、農地法等に基づく許可事務だけでなく、担い手への農地利用の集積・集約と耕作放棄地の発生防止・解消、新規就農の促進に積極的に取り組むべく活動を続けています。また、農地利用の最適化に取り組み体制を強化するため、新たに農地利用最適化推進委員会が作られこの一年、推進委員長として活動を行ってまいりました。

推進委員は農家と関わることで意見を聞き、総会で意見を述べ耕作放棄地の解消になればとの思いで活動を行っています。

新制度になり、農業委員と推進委員と連携をとり活動を行って来ましたが、農地の事なら何でも相談していただける体制が不可欠と痛切に感じています。

新しくなった組織を円滑に運営するためにも、推進委員と農業委員は、地域農業の世話役との思いで、各地域単位で小部会を立ち上げ、より農地に対する相談がしやすい体制の構築を図っているところです。

これからも、地域農業の活性化と農家から相談をしていただける農業委員会となるよう、活動をしてまいります。

頑張ってます！農地利用最適化推進活動

豊岡市農業委員会は、昨年4月から農業委員19名と新たに農地利用最適化推進委員25名を加えた44名の体制になりました。地域で頑張る農地利用最適化推進委員の声をお届けします。

西気地区 (日高地域)



西気地区は、豊岡市の南西部に位置し、日高町の神鍋高原がある地区です。四方を山々に囲まれた風光明媚な盆地で、清らかな水と昼夜の寒暖差は米づくりに適し、食味の良い米は高い評価を得ています。また、二万五千年前の噴火による火山灰は「黒ボク土」と言われ、水捌けがよく野菜作りに適しており高原野菜は有名です。有数なスキー場を持つ神鍋高原は、四季を通じてスポーツが盛んな観光を併せもった地区です。平成十五年には、蘇武トンネルが開通して、交通の利便性が高まりました。

ならず水田にも影響が出てきています。電気柵等による防護策は費用負担及び保守点検等

【万劫区の田植えイベント】



体験を通して農業に興味を持ってほしい

が広範囲になり個人の力・区単独では限界がある状況です。この地区の課題は、高齢化に伴い多くの農家の農業離れに加え、キャベツ、スイカ等重量野菜の作付面積が減少する中、担い手不足と相まって耕作放棄地が年々増加し、近年は景観形成にも悪影響が生じています。今後、地区の農業をどのように守り育てていくのかが大きな課題です。魅力のある農業、飯の食える農業はもちろんのことですが、まずは、農会、農家、農業者グループなど関係機関と連携し、耕作放棄地の解消に向けて取り組んでいきたいと思えます。



雪に覆われ静かに春を待つ、西気地区

耕作放棄地解消に向けた取り組みの一つに、当地区の特徴である観光との連携も大切な柱と考えています。地区内のほ場巡回をしながら、耕作状態や、不耕作面積の把握に努めるとともに、意欲のある人材を育成するお手伝いが出来ればと思っています。そして将来的には、担い手農業者や、農地所有適格法人に農地の集約が出来ればと希望しています。

(推進委員 井上 孝)

資母地区 (但東地域)



資母地区は豊岡市の南東部に位置し、田んぼアート・たんとうチューリップまつり、そばまつりなどが開催されている地区です。昨年四月より新体制がスタートし、農地利用最適化推進委員として八月一日に農地パトロールを実施し、農地への再生が難しい山間の奥まった農地や谷地田が耕作されずに遊休農地となっている現状を確認しました。遊休農地を「再生可能な農地」「再生困難な農地」と仕分けし、どのように対応・解消していくのかが問われます。これ以上増やさないためには、奥まった所の農地を維持することが大切なポイントですが、生産効率が悪いなど様々な障害があり、残念に思うところです。



田んぼアート

もう一方、遊休農地が増加する一番の原因は、農業従事者の減少です。高齢化による離農の増加や後継者不足、農業の採算性の厳しさなどでその数は減り続けていると考えられます。



たんとうチューリップまつり

当地区は、農地の集積・集約化を図り、農地中間管理機構との連携を行い、担い手（認定農業者）・農地所有適格法人等で請け負い可能な限り努力されていますが、限界も見えてくることでしょう。工夫次第で生産性を上げられ、もう少し規模拡大を目指す事が可能としても、これに伴い設備、機械等々の見直しや販路の確立など様々な課題を克服する必要があります。ここに難しさを感じるところです。こうした中で期待したいのが、新規参入者の促進、自営で農業を営む農業従事者も続けられる努力をしていただくこと、また、後継者対策を持っていただき昔のような田園風景が少しでも取り戻せたら大変嬉しく思います。

皆様から幅広い内容を聞かせていただき、地域の農業が盛り上がりつついけるよう、努力させていただきます。推進に取り組んで参りたいと思っております。よろしくご支援お願いいたします。

(推進委員 松本雅浩)